

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972100394		
法人名	医療法人 レザレクト		
事業所名	グループホーム はなみずき		
所在地	〒781-5232 高知県香南市野市町西野1886-3		
自己評価作成日	平成27年9月28日	評価結果 市町村受理日	平成28年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様とご家族様、地域との繋がりを大切に思い、行事(文化祭・ボランティアの来所・あじさい見学・クリスマス会)等を開催し、地域交流の場の提供を心がけています。母体は医療機関でもあり、相談や助言を受け、健康管理連携をすすめています。また、併設しているデイサービスでのレクリエーションに参加等をし、それぞれの利用者様にとって安心した生活の場となれるように努めています。洗濯干しや洗濯物たたみ、食器洗い等、生活の中で、一人一人が役割を持った生活が送れるよう対応しております。ご利用者様の人格を尊重することを重点に、職員の言葉使いやマナー等、法人としても力を入れています。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&jiyosvoCd=3972100394-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成27年11月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、国道から少し入った周辺に農地が多い閑静な場所に立地し、民家にも近く、隣接するデイサービス事業所と共に、住民との交流を図りやすい環境にある。事業所の火災訓練には近隣住民の参加・協力があり、火災通報の連絡先に住民5名ほどが登録している。</p> <p>管理者や職員の多くが就任後半年から1年と日も浅いが、月3回開催する職員会や日々のケアの場面で情報共有や意見交換を活発に行い、利用者の人格、権利を尊重する事業所の理念に沿って、新旧の職員同士で協力し合っている。法人理事も月2回は職員会に出席し、職員の意見を直接聞いて、要望等を汲み取っている。また、職員に各種内部研修の担当を割り当て、職員は主体的に研修に関わることでケア全般への理解を深めている。</p> <p>家族とは、面会時に相談を受けたり、年2回の家族会を通して話しやすい関係を築いており、行事等の実施にも協力的である。事業所は開設後10年を経過し、職員はこれまでに築いた地域との基盤を引き継ぎながら、更なる事業展開を目指している。</p>
--

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を、玄関や事務所等の目の付く所に掲げて、日々の業務中や、月3回の会議では、共有できるよう声かけしながら、実践につなげている。	利用者の人格・権利を尊重し、能力に応じた暮らしの支援と地域貢献を理念とし、それに基づく基本方針を掲げ、利用者・家族の満足と職員のやりがいの実現に向けて取り組んでいる。月3回の職員会でケア内容を協議しながら理念を確認し、職員に浸透させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の活動として、回覧板や地域の方からの回覧にて、年2回の一斉清掃活動への参加等にて地域の行事への参加を行っている。また、グループホームでの行事(クリスマス会・文化祭兼バザー・ボランティア来所)開催、地域の方による3B体操等を通じて地域交流の場がもてるようにしている。	地区一斉清掃には利用者も参加し、地域の一員として活動している。事業所の文化祭等には住民50人ほどが参加するなど、各種行事が地域に定着し、近隣からの野菜・果物等の差し入れやボランティアの訪問があり、災害時の連絡先に住民が協力するなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記の活動を通じて交流する中で、認知症の方に対する理解も深まっている。またボランティア活動前にオリエンテーションを行い、認知症について、理解していただけるよう対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の取り組み状況を、写真等も加えた資料で報告し、参加者からは質問や意見、提案をいただき、職員会での検討等にてサービスの向上に活かしている。	会議では議題ごとに意見交換を行い、外出先や行事計画、関連法制、事故防止の方策、評価にかかる目標達成計画等について幅広く協議し、意見や提案を運営に活かしている。家族全員に参加を呼び掛け、議事録を送付して周知を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や電話連絡にて、アドバイスを受けたり、ケアなどの相談を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議での状況報告のほか、地域包括支援センターの呼びかけによる市内のグループホーム連絡会で実践報告を行い、実情を行政に伝えて関係を築き、運営上の不明な点の照会等を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修、又は内部研修にて勉強会を行っている。個別ケースの対応などについては、必要に応じて話し合いをし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は、玄関・個々の居室や窓・外部へ通じる扉などの施錠は行っていない。	身体拘束防止の研修部門を担当する職員が資料を作成して、職員会で自主研修をしたり、外部研修の成果を伝達して理解を深め、日常のケアを再確認している。言葉遣いなどを現場で注意しあい、職員同士で連携して身体拘束のないケアに取り組んでいる。家族ともケアに伴うリスクを話し合い、理解を求めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修、又は内部研修にて勉強会を通じて、周知徹底を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会を計画している。研修に参加した職員による内部研修により、他職員に伝達するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約内容や重要事項説明書について、わかりやすい表現や説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中で、要望や意見を話しやすい雰囲気できき取るよう配慮し、ケアに反映している。年2回の家族会での意見交換も行っている。ご利用者のご家族の面会も多くあり、行事への参加も有るので意見が日常的に出やすい雰囲気である。	利用者にはケアを通じて意見や希望等を聞き取り、家族には面会時のほか、行事に合わせた年2回の家族会で意見や提案を聞いている。家族は不安に思う事項も含め率直に意見を出し、ホワイトボードを利用した行事予定の周知の提案やレクリエーションの種類の検討を行うなど、改善につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月3回の職員会で、職員同士の意見や提案を個々に行ってもらい、運営者にも参加していただける時などはアドバイスをもらい、職員の意見や提案を日々の業務に反映できるようにしている。	月3回の職員会のうち2回は理事も出席して、職員と意見を交換している。管理者は話しやすい雰囲気をつくり、職員は行事計画の検討や、利用者個々のケア方法等について積極的に発言し、記録するとともに業務に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は、職員の勤務状況・努力や実績を評価するとともに、健康診断実施により心身状況の把握も出来ている。各研修等は出張扱いとし、一部を除き事業所で負担し、職員の向上心を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のケアの中では、各職員の得意なことなどを発揮してもらえるような機会を設けている。また、研修参加後の報告会を開催し、他職員への伝達も出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	香南市役所介護課主催の地域密着型サービス事業所情報交換会への参加や、土佐長岡郡医師会・香美郡医師会主催の地域連携に関する勉強会に参加し、同業者との交流する機会を作り、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には事前面談を行い、安心した生活を送れるとともに、職員と馴染みの関係を築けるよう、生活状況(好みや習慣)など把握し、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時や入居前にはご自宅を訪問し事前面談を行い、今の生活での不安なことや要望等に耳を傾け、安心した生活が行えるような支援へと繋げていくとともに、家族等との関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の意見を聞くうえで、まず必要としている支援(優先すべき支援)を検討し、可能な限り対応できるように、他職種とも相談し実施に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、一緒に出来ることを探しながら行い、ご本人と職員が共に支えあう関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活の流れに沿って総合的な把握をした上で、個々の日常言動や行動に反映し、声かけを行い日々の生活の中で出来る力が発揮できるよう、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向をもとに、主治医や医療連携看護などの助言・職員内での意見を取り入れて介護計画を作成し、月1回のモニタリングでズレがないか確認し実施している。	介護計画のモニタリングは月1回行い、計画の見直し前には家族、利用者を交えた検討会を実施している。各利用者の担当職員が医療関係者の意見も踏まえ、内容を評価して職員会で協議し計画を作成している。計画内容は、3カ月又は利用者の状態変化に応じて随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子を記録し、注意する点や検討内容は職員間で申し送り・連絡ノート等で情報共有しケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病状に応じた医療機関の受診、美容院の訪問美容、併設のデイサービスの利用を取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方による3B体操ボランティアや、香南市介護支援ボランティアポイント制度等の活動の取り入れや、その他のボランティアを活用し、暮らしを楽しむことができるような支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人・家族の希望医師とし受診・往診にて適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は、利用者・家族の希望により選択し、協力医療機関とその他の医療機関から定期の往診を受けている。受診記録は、医療は申し送りノート、訪問看護は連携ノートに記載し、家族への報告とともに職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師から週1回訪問があり、様子の確認や助言を頂いている。また、日々の相談を行いながら、必要に応じた助言を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、医療機関との情報交換を行い、家族からの入院の様子の確認の連絡や、面会に行き、情報を得ながら関係性を持つようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状については、常に家族に報告している。事業所での対応可能な範囲は、家族にも伝え、医療関係者と相談を行い支援に取り組むようにしている。また、ターミナルケアの研修や、入居時には終末期にかかる意向確認書等を整備し、本人や家族等に説明している。	重要事項説明書及び看取り看護マニュアルに基づき、利用者・家族に説明し同意を得ている。重度化した場合は入居時の意向に沿って、意思を再確認しながら主治医等とケア方針と対応を話し合い、看取りのケアプランを作成することとしている。職員会では看取りの学習や意識の共有を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを周知し、内部研修も行っている。応急手当についての研修は2年に1度、消防署員より受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域での防災訓練や、施設での防災訓練には、地域や家族の参加も呼びかけている。災害時の備蓄品も備えており、賞味期限の管理も行っている。各部屋に防災頭巾を備え付けており、事務所には防災用のライト等も設備している。	年2回、消防署の立会いのもと、隣接のデイサービス事業所と合同で火災訓練を実施するほか、事業所単独で夜間想定と地震避難訓練を実施している。訓練には、近隣住民が5名参加し、訓練後は反省会を行い、改善と協力体制を確認している。ヘルメット、排泄用品、水等を準備しているが、食糧が3日分に足りない可能性がある。	食糧の備蓄量を再確認し、県の防災パンフレットも参考にしながら3日分以上を確保するとともに、食糧の種類も利用者が食べやすいような物を準備するなど工夫を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活のケアの中で一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように、職員同士で対応や言葉かけを注意し合っている。また、尊厳やプライバシー保護について、内部研修を実施している。	毎月の職員会で利用者の尊厳等に関する研修を行っており、その時に日常の言葉遣いについて振り返り、利用者の人格を傷つけないよう、職員同士で注意しあっている。また、退職後も事業所での情報は他に話さないよう徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や表現の中から、本人の思いを汲み取り、自己決定できるように声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の一日の流れもあるが、本人が希望する買い物等の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ洋服は本人に選んでもらっている。選ぶことの出来ない方も、職員が数点選び、好きな方をご自身で選んでいただけるよう工夫している。また、行事には化粧をしたり浴衣を着る等で、おしゃれを楽しんでいたできるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材の食べ方などを利用者に関し、アドバイスを受けながら調理を行っている。利用者の好きな食べ物を提供したり、外からお弁当を注文している。また、盛り付けや後片付け等も、本人の希望に沿って実施している。	当日に、利用者の希望を聞きながら、重複しないよう献立を作成している。食材には旬の物を取り入れ、利用者は皮むき、食器洗い、盛り付け等自分にできることを手伝い、職員は食事の介助をしながら話題を提供して、食事を楽しめる雰囲気をつくっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量のチェック表により確認及び把握し、日々の体調に応じた食事形態の工夫も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけや介助を行っている。その人に応じた舌のブラッシング介助や軟膏塗布介助を行っている。義歯は毎日、夜間洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握し、声かけや誘導支援を行っている。また、夏場はオムツ外しの実施を行い、紙パンツから布パンツに移行する期間も作っている。	利用者個々の排泄パターンを把握し、尿・便意の意思表示ができない利用者には、時間を見てトイレ誘導し、排泄を支援している。自立してトイレで排泄する利用者についても、排便の確認をしている。夜間も、ほとんどの利用者にトイレでの排泄に向けた自立支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操やレクリエーション活動にて、体を動かす機会や、蒸しタオルにてお腹を暖めてからマッサージを行い、便秘予防に努めている。また、飲食物では、牛乳・ヨーグルト・食物繊維の多い食材を利用した食事の提供を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴が楽しめるように、管理表をもとに声かけしながら入浴支援をしている。また、ご本人の好きな時間帯に入れるように声かけも行っている。入浴は一人ずつ入浴していただいている。	入浴は利用者の希望に沿って支援し、1番風呂を希望する利用者には他の利用者との調整を図っている。2日に1回の入浴希望が多く、入浴チェック表を基に声掛けしながら支援している。入浴の拒否があれば、無理強いせず声掛けのタイミング等を工夫して入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操やレクリエーション活動、生活の家事を取り入れ、日中を活動的に過ごしていただき、夜間、自然に眠れるように支援している。昼間も、必要に応じて休息を取っていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援担当職員は、名前や日付等のチェックを確認担当職員と行い、服薬支援を行っている。薬の情報は、連絡ノートを通じて職員で共有し理解に努めている。また、必要に応じ、薬剤師や訪問看護との連携及び相談を取るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活の中で、本人が習慣としていたこと(写経・読書等)が続けられるように支援している。また、家事(食器洗い、洗濯物たたみ、洗濯干し)等にて役割作りができるように支援している。毎月、専門による音楽療法も取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望によって、散歩にも付き添いでいる。買い物外出希望がある方には、買い物日に声かけし確認を行っている。ドライブや、外出時は、2～3グループに分けて家族協力を得ながら支援している。	天気の良い日は、午前・午後に車いすの利用者も含め、1名ずつ職員が付き添い、周辺を散歩している。また、行事案内を事前に家族に送付し、家族の協力も得て喫茶店等に出かけている。職員と一緒に買い物に出かけたり、1時間程度のドライブでなじみの店等に行くこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金庫にて預かり金を保管している。訪問美容や外出時には、出来るだけ本人が支払いできるように支援している。また、本人希望にて、自室にお金(小銭程度)を所持している方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人へホームの固定電話を利用したり、毎年の習慣であった年賀状などのやり取りが出来るように支援している。また、希望時にも手紙を書いていたっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の絵画はボランティアの方が、定期的に交換してくれて鑑賞展示している。また、ご利用者の若かった頃の作品の展示なども喜ばれている。春には、ご利用者様の好みの苗にて、野菜作りを行っている。ホールは陽あたりも良く、周囲には花が咲き季節を感じることができている。	居間の周囲に各居室があり、居間は採光が良く、明るい空間の中で利用者は食卓やソファなど、好きな場所でゆったりと過ごしている。廊下にはボランティアによる、押し花で作った絵画が飾られ、利用者や家族の目を楽しませている。居間には季節の花を活け、窓から干し柿等の景色も見えて季節を感じることができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	陽あたりの良い場所では、椅子に座って井戸端会議をされたり、思い思いに過ごしていただけるように椅子を配置している。また自由に、気の合った利用者同士がお互いの自室を行き来している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、家族の写真等を自宅から持ってきていただき、自室は心地よく過ごせるようにそれぞれ、本人や家族で工夫されて環境を整えている。	家族の協力で、馴染みの筆筒や物入れの家具が持ち込まれ、利用者それぞれに家族写真や、人形、パッチワーク等の趣味の作品、芸能人のポスター等好みの物を飾って、居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は手すりを設置し、廊下へは転倒要因となる物は置かないようにしており、安全を確保している。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				